



## 幼小中一貫教育実践研究発表会



11月25日(金)に幼小中一貫教育実践研究発表会を行いました。山口大学の中期目標・中期計画に基づき、幼稚園、小学校、中学校の12年間の育ちと学びをつなげる教育を目指して幼小中一貫教育の取組が始まったのが平成28年。より一体感のある充実した取組となるように、三校園の総称を「やまぐち学園」とし、合同の学校運営協議会を設置したのが令和元年。そして、「幼小中一貫教育実践研究発表会」は、リモートでの発表を含め、4回目となります。めざす人間像を「よりよい未来を共に創り出す人間」とし、研究主題「対象・他者・自己と向き合う子供の姿を視点とした保育・授業づくり」を設定して実践研究を進めてきました。今年度の研究発表会は



この研究主題での研究のまとめとして行い、山口県内外から約350名のご参加をいただきました。全クラスのフリートークをご覧いただいた後、公開授業Ⅰでは、国語、算数、外国語、家庭科、総合を、公開授業Ⅱでは、社会、理科、生活、図工、体育を見ていただきました。子供たちは、多くの参会者に注目される中、集中して一生懸命学習しました。幼稚園、小学校、中学校の子供たちの学びと成長がどのようにつながっているのかご覧いただくことができました。

当日の受付にご協力をいただいたPTA執行部をはじめ、保護者の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

## 研究発表会に参加された方々のご感想

- 幼小中の全ての先生が同じねらいや育てたい子供の姿を共有して子供と向き合うことで、見直すきっかけになったり、願いをもって子供と関わったりすることができると感じました。附属の学校だけでなく、公立や私立の学校でもこれができると思えました。
- 学園としてつながっている幼小中があるのでこれだけの一貫教育ができる。理想的でうらやましい限りです。
- 小学校から中学校まで、教育方針の一貫性をもたせていくことはなかなかできないことですが、やまぐち学園の一貫教育は、よりよい子供の育ちを願い、方向性をあわせていて素晴らしいと思えました。場所的にも連携が取れやすく理想的だと思います。
- 校種ごとではなく、幼小中の教育の中で子供たちの資質・能力を向上させることの大切さを理解することができました。そのために必要な見方・考え方を私自身もやっていきたいと課題を見付けることができました。
- 成長を見通して育むこと、幼小中一貫した学びがあることを改めて実感できた。保護者の援助や環境が勉強になった。
- フリートーク、テーマトークは学級の支持的風土を醸成するよい取組であると感じました。
- フリートークは、どの子も安心して語る土壌ができてすてきな習慣だと思います。協議会でも話題にあがりましたが、今は共感的に聞くことに振っているので、発達段階に応じて軌道修正したり、焦点化したりして深まる討論になると、議論の質が高まると思えました。
- 授業だけでなく、子供たちの内面の成長も考えられていると実感した。
- 教育の連携を見ることができ、一貫校ならではの教育の持続性を学び、大変勉強になった。
- 見方・考え方がしぼってあったので、小中でどのように見方が広がり、考え方が深まったのかを見ることができました。
- 教科毎に子供の成長をつなげていることがとても素晴らしいと思えました。